

5学科の実習を通して

1、2年生が交流・共同学習

【美深】美深高等養

護学校（大泉真哉校長）と美深高校（大谷健介校長）の交流・共同学習が12日、美深高等養護学校で行われ、両校の1、2年生が授業の実習を通じて交流を楽しんだ。

この取り組みは両校間の交流事業として行われ、今年で6年目となる。

この日は美深高校の1、2年生47人が美深高等養護学校を訪れ、各学科の実習を体験した。

美深高校の生徒は事前に木工科、工業科、被服デザイン科、農業科、食品デザイン科の5学科から希望する授業を選択した。

養護学校の1、2年生50人が普段の授業の経験から、美深高校の生徒に作業の指導や助言を行い、一緒に作業に取り組んだ。

科はコースター製作を行い、糸鋸で木材の切断や滑らかな仕上がりになるよう段階的なヤスリがけを体験。工業科は流し込んだコンクリートの型枠外し、型枠掃除、溶接を体験。被服デザイン科は2年生がスマホスタンド製作、1年生がオリジナル布巾製作を行い、ミシンの使い方や布巾の色づけなどを体験。

農業科はジャガイモの収穫を行い、畑からの掘り起こし、かこに入れたの運搬などを体験。食品デザイン科は2年生が製菓で、イタリヤの棒状のパン（グリッシーニ）を調理、1年生は牛乳パックを材料にした紙すき作業などを実施した。

実習中、双方の生徒は趣味などの話をしながら親交を深め、美深高校の生徒は「普段で

きないことが体験できたこと、養護学校の生徒さんの実習に向かう姿勢がとても勉強になった」。美深高等養護学校の生徒は「他校の生徒と話せる機会があったにないので、とても良い経験になった」と話していた。

10月には両校の3年生が美深高校でディベート交流授業を行う予定。



ジャガイモ収穫を楽しむ両校の生徒たち